

世界と繋がりながら語り合うハイブリッド・ワークショップ

～夢を思い描き、未来を切り開く子どもたちを育てるために～

■ 主催者より挨拶（本ワークショップの意義と目的）



現在、教育現場においてアクティブ・ラーニングという言葉が踊っています。そこで私は、「なぜ今、アクティブ・ラーニングが全国的に推進されているのか」という問を立ててみようと思います。

「何をやればいいのか」ではなく、このように、「なぜ」の視点に立ち、「なぜ」を掘り下げることで、いろいろなことが見えてくるはずです。

例えば、「高度接続型社会」「知識基盤社会」などといわれる現代社会を生き抜くための人材育成の視点や、そのために求められる教育環境の変革という視点が浮き彫りになってくるかもしれません。あるいは、アクティブ・ラーニングとは単に学習効率を高める授業手法の工夫を目指すものではないという考えに行き着く人がいるかもしれません。私は、とりあえず、次の5つを回答としてあげてみました。

- ①主体的に学び続けるアクティブラーナーをつくるため。
- ②教師・生徒のマインドセットを整えるため。
- ③社会と学校が縊がかりで新しい学びをつくりだすため。
- ④知識・技能だけではない評価軸により「学力」を評価するため。
- ⑤教師の一方的な教授パラダイムを脱構築し、安心と安全の対話空間を築くため。

実はこれらは、学校で主体的な学びが行われていないこと、学校と保護者の思いが乖離していること、知識注入型の一方的な学びが未だに横行していること、などの問題意識の裏返しとも言えます。

つまり、「なぜ」を掘り下げていくうちに、私たちがたどり着くのは、現在の学校環境や教員文化を見直していこうという、新たなスタンスではないかと思うのです。

アクティブ・ラーニング推進の目的がここであげたようなものを含むと仮定すると、そのような変革を行うためには、校内での授業改善という閉じた取組では限界があります。求められるのは、現場の教師として、アクティブ・ラーニング推進の意図を広く発信していくとともに、職種や地域を超えて、学びに関わる多様な人々と繋がり、議論を深めていくことではないでしょうか。そのような思いを込めて、今回のセッションでは、これまでにない大胆かつユニークな企画を取り入れてみました。

一つは、地域に開かれた学びの場を創造し、子ども、教師、親のマインドセットを変革している、強力なイノベーターをお呼びし、話題提供をしていただくことです。その話題を基調としたグループセッションによって、会を進めていこうと考えています。

二つ目は、今回のセッションを、ZOOM というオンラインミーティングツールを用いて、会場と全国、更に世界にまでつなげて意見を交流していこうという企画です。今のところ、国外では時差の少ないマレーシア、韓国、シンガポール、ニュージーランドと繋げることを想定しています。

三つ目は、参加者についてです。高校教員だけという内向きの視点を脱し、学びに関心のあるすべての人を対象としています。もしかしたら、高校生からの問題提起があるかもしれません。

このセッションを通して、学校・保護者・地域が互いに「当事者意識」を持ち、縊がかりで、生徒に「未来を切り開く力」を生み出し育てるための、次の一手となることを期待しています。

■ セッションの概要

- 1 日時 平成 28 年 11 月 22 日 (火) 16:30~18:30
- 2 会場 岩手県立花巻北高等学校 (1 階 社会科教室)
- 3 対象 本校職員 (希望者) 及び教育に関心を寄せる世界中の皆さん
- 4 内容

【ワールドカフェ方式でのワークショップ中心】

- ①インスピレーショントーク I (話題提供) 才神敦子 & ロナ・ラージス
『子供がアクティブになるために、大人として出来ること』
- ②インスピレーショントーク II (話題提供) 松嶋 渉
『学校×ICT×社会』でシナジーを起こす学習デザイン』
- ③グループミーティング (ZOOM と同時進行)
- ④ハーベストの共有

5 参加申し込み

別添の申し込み用紙にて FAX で申し込みください。

■ ゲスト紹介

●インスピレーショントーク I スピーカー

【才神敦子 (サマンサ)】(No Limits コーチ・英会話教室カンガルークラブを青森県八戸市で主宰)



【ロナ・ラージス】
(サポートスピーカー)



自らの子育ての経験、そして教室の多くの子供たちと接している中、子どもたちが挑戦する前から「無理!」という言葉、無意識に使っていることに疑問を持ち始める。そこで、アメリカで「子ども演劇体験プログラム」と出逢ったのをきっかけに、それまでの子育ての苦い経験と、学んでいこコーチングメソッド、10年以上にわたる英会話教室運営のノウハウを融合させ、主体性を持って行動できるようになるための英語劇&夢発見コーチングのオリジナルプログラム【No Limits ドラマキャンプ】を考案。一般社団法人ノーリミッツコーチング協会を設立し、現在ではこの No Limits ドラマキャンプを毎年夏休みに開催。子供たちが自らの限界をなくし、潜在的な力を発揮し、夢実現できるようなサポートを行っている。(サマンサ)

10年以上毒親の元、才能や可能性を封じられ続ける。母親が改心したことをきっかけに、自分の心に従って、アクティブに人生を切り開き始める。中学生で切り絵の個展を開催。高校になると、妖精学を教える講座を開催したり、Fairy Code という妖精をテーマにしたオリエンテーリングを考案し、イベントを企画開催するようになる。高2の夏休みにはアメリカ人の友人と二人で、妖精が人間とともに在る国アイルランドへ。そこで妖精を身近に感じて、さらに妖精に関しての学びを深めていきたいと思っている。(ロナ)

<話題提供しようと思うこと>

子供たちがアクティブな学びを自ら行うことができるようになるために、周りの大人として出来ることは何でしょうか。家庭で、親子間で、彼らがアクティブに生きるためのマインドを作るためのヒント、そして、実際そのマインドセットを持っている子供はどのように自分の人生を切り開いていくのか。事例をあげてご紹介します。

●インスピレーショントークⅡ スピーカー+ブリッジ

【松嶋 渉】山口県立萩商工高等学校 教諭 情報デザイン科長



映画関係、出版関係の仕事を経験し、30歳から教師としてのキャリアを始める。主にICT教育に携わっており、授業ではプログラミングやWeb制作に関することを教えている。本業での活動の一端が、2015年12月発行のリクルートのキャリアガイダンスで全国の「学び合い、挑戦し続ける教師たち」8人の中の1人として紹介された。地域のボランティア活動の一環として地元コミュニティFMでDJも行っている。

<話題提供しようと思うこと>

「主体的で対話的な深い学びを起こすための学習環境はどのように創られるのだろうか？」ということを考えていく1つのヒントとして、ICTや地域の人財（人材ではなく）を学校の中に入れて学習活動を行った事例の発表をします。イメージしやすいようにテレビで放送された内容やビデオ映像を使っでの紹介を行います。

●ZOOM ファシリテーター

【田原真人】オンライン教育プロデューサー「反転授業の研究」代表、「フィズヨビ」代表



4000人を超えるオンラインコミュニティ「反転授業の研究」を主催。物理ネット予備校（フィズヨビ）代表。オンライン教育プロデューサーとして、オンラインに学習者中心の学びの場を創り出すことに取り組んでいます。オンラインコミュニティをサードスペースとして捉え、日常を離れた対話空間をオンラインに作り、オンラインで語り合うことによってマインドセットを変え、社会に変化を起こしたいと思っています。

反転授業に取り組む中で、生徒の学習サイクルを回すことができるのは、自らも学習サイクルを回している教師であるという結論を得ました。教師が組織を越境して繋がり、学び合うためにZoomのようなコミュニケーションツールを役立てたいと思っています。

●リアルファシリテーター

【筒井洋一】前京都精華大学人文学部教授、現筒井ラーニングLab 合同会社代表



私の大学の授業では、過去3年間でのべ800名の見学者がやってきました。その授業では、学外ボランティアが中心になって授業を創っています。大学の授業を、教員・学生だけの閉鎖的な学習空間から、授業をオープンでフラットにすることで、教育に未来が見えてきます。

・2013年前期授業の動画です。<http://bit.ly/1t0KnvY>

・参考文献 筒井 洋一、山本 以和子、大木 誠一編著

『CT(授業協力者)と共に創る劇場型授業—新たな協働空間は学生をどう変えるのか』東信堂、2160円 <http://amzn.to/1RPt9KS>

近年は、「大学の学びを社会へ、社会の学びを社会に広げる」ということで、京都の町家やオンラインにも広がっています。小中高大学という学校種や企業・市民などと自分の授業を見せ合いながら、越境する学びを展開しています。

花巻北高校第4回 AL 研修会 アフターアワーセッション参加申込書

上記について下記のとおり申し込みます。

記

申込	内 容	時間帯	備 考
	アフターアワーセッションのみ参加	16:30～18:30	定員の関係でお断りする場合がございますので、ご了解ください。
	課題別サミットの「③講演会」および「④パネルディスカッション」にも参加	10:20～16:20	課題別サミットの内容は下記を参照ください

↑いずれかに○をつけてください。

所属等		
参 加 者	氏名	
	メール等 (連絡先)	
	備考	

※ 課題別サミットのみに参加を希望される方は備考欄にその旨をご記入ください。

※ 平成28年10月28日(金)までに申込みください。

※ 添書は不要です。

【問い合わせ先】岩手県立花巻北高等学校

ptf55-simomac@iwate-ed.jp 0198-23-4134 校長 下町壽男

※ 参考 【課題別サミット(県教委主催)の内容について】

- ① モデル授業(数学) 10:50～11:50
- ② モデル授業に関する研究協議 12:00～13:00
- ③ **講演 13:45～15:15 (アクティブ・ラーニングについて)……(一般公開)**
講師 産業能率大学教授 小林昭文氏
- ④ **パネルディスカッション 15:25～16:15 ……(一般公開)**
テーマ 「アクティブな学びを引き出すために」
小林昭文(産能大教授)・下町壽男(花北校長)・鈴木徹(教育センター主任研修指導主事)